



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-51

(2025. 8. 15)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の定期預金残高

ポイント

- 2024 年度末の信用金庫の定期預金残高は、前期比 1.0%、74 百億円減少の 71 兆 26 百億円となり、8 年連続で前年度末を下回って推移している。
- 預金残高に占める定期預金残高の割合（定期預金比率）は、2000 年度末の 68.8%から 2024 年度末には 44.1%にまで低下した。
- 2024 年度末の地区別の定期預金残高は、東海と九州北部で前期比増加し、南九州、関東、北陸などの 9 地区で前年度末を下回った。
- 2024 年度末の信用金庫別の定期預金比率は、①40%未満が 28.7%、②40～50%が 40.1%、③50%以上は 31.1%となった。

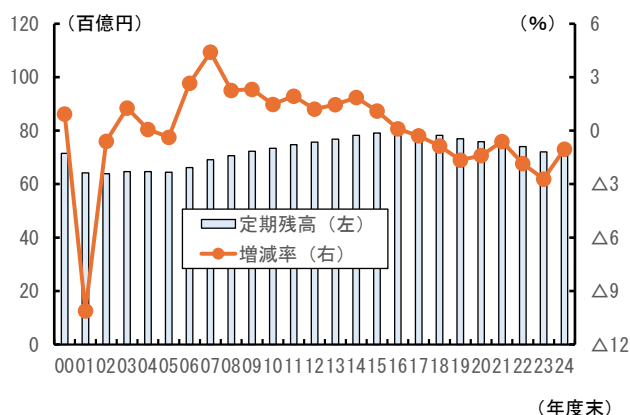
1. 全国状況

2024 年度末の信用金庫の預金残高は前期比 0.2%、37 百億円増加の 161 兆 53 百億円となり、23 年連続で過去最高を更新中である。

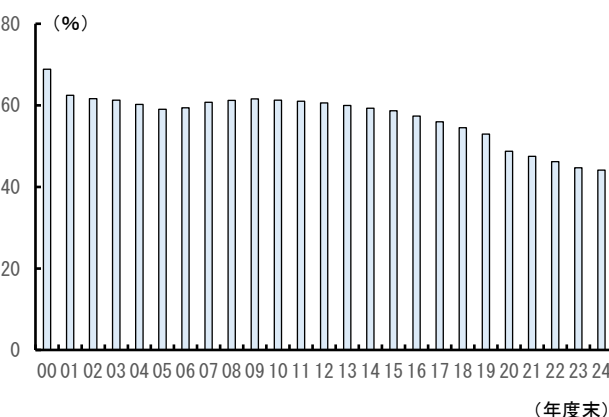
預金の内訳をみていくと、定期性預金の大宗を占める定期預金残高は、前期比 1.0%、74 百億円減少の 71 兆 26 百億円となり、8 年連続で前年度末を下回った（図表 1）。信用金庫の定期預金残高は 2016 年度末に 79 兆 15 百億円のピークに達した後、マイナス金利政策の影響などから減少方向にあった。ただし「金利のある世界」に伴う預金セールス強化の動きもあり、2024 年度中の減少幅は 2023 年度中（2.7%減）より縮小した。

この結果、預金残高に占める定期預金残高の割合（定期預金比率）も低下が顕著である（図表 2）。2000 年度末に 68.8%あった定期預金比率は、2020 年度末に 50%を割り込み、2024 年度末には 44.1%にまで低下している。

（図表 1）定期預金残高の推移



（図表 2）定期預金比率の推移



（備考）図表 1 から 4 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024 年度末の地区別の定期預金残高は、東海と九州北部で前期比増加し、南九州、関東、北陸などの 9 地区で前年度末を下回った（図表 3）。2024 年度の定期預金比率が最も高かったのは四国（61.3%）で、近畿の 49.9%が続く。また、2000 年度末の残高と比較すると、四国が 4 割（42.4%増）を超える増加を示した一方で、中国は 23.9%減となるなど、地区によって増減状況に差がみられる。

（図表 3）地区別の定期預金残高

(単位：百億円、%、億円)

地 区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		00年度末 比 率	24年度末 比 率	24年度末 1金庫残高
						増減額	増減率			
北海道	349	380	365	345	341	△ 7	△ 2.0	65.4	40.1	1,709
東 北	258	251	270	263	261	3	1.5	65.0	43.9	970
東 京	1,319	1,352	1,324	1,247	1,220	△ 99	△ 7.5	67.8	42.8	5,304
関 東	1,355	1,321	1,288	1,190	1,165	△ 189	△ 13.9	67.8	38.8	2,379
北 陸	221	241	209	193	189	△ 31	△ 14.1	70.0	47.1	1,265
東 海	1,350	1,441	1,608	1,544	1,548	197	14.6	67.5	44.1	4,553
近 畿	1,511	1,563	1,743	1,672	1,665	154	10.1	72.7	49.9	5,744
中 国	340	319	289	263	259	△ 81	△ 23.9	68.7	38.3	1,296
四 国	138	180	196	200	197	58	42.4	78.1	61.3	1,978
九州北部	121	118	122	121	121	0	0.2	67.6	44.9	935
南九州	167	155	157	147	143	△ 24	△ 14.3	68.7	45.6	1,103
全 国	7,145	7,335	7,587	7,201	7,126	△ 18	△ 0.2	68.8	44.1	2,805

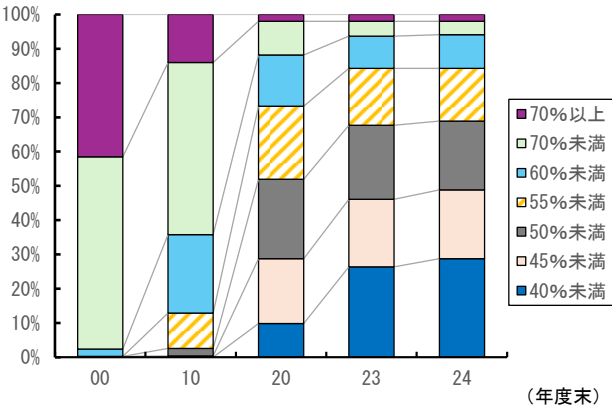
（備考）沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

2024 年度末における信用金庫別の定期預金比率（構成比）は、①40%未満が 28.7%（73 金庫）、②40～50%が 40.1%（102 金庫）、③50%以上は 31.1%（79 金庫）となった（図表 4）。定期預金比率の平均は 44.1%だったが、中央値を確認すると 45.4%となる。また、90%以上が 1 金庫（所在地区：近畿）、30%未満は 8 金庫（同：北海道 2、東京 1、関東 3、近畿 1、中国 1）、それぞれあった。

ちなみに2000年度末の定期預金比率は 68.8%であった。構成比をみると、50%未満が 0.2%（1 金庫）となり、また 70%以上は 41.5%（154 金庫）に達するなど、2024 年度末と異なる状況にある。

（図表 4）信用金庫別の定期預金比率（構成比）



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。